

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 21日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520211

研究課題名（和文） 占領期文学とメディアにみる検閲と本文の総合的研究

研究課題名（英文） A Comprehensive Study on Censorship during the Occupation Period in Japan through the Analysis of Literature and Media

研究代表者

十重田 裕一（TOEDA HIROKAZU）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：40237053

研究成果の概要（和文）：

占領下の日本では、1945～49年までアメリカ軍GHQ/SCAPの検閲が実施されていたが、プランゲ文庫をはじめ占領期の膨大な資料の調査からは、解放されると同時に閉ざされるという、引き裂かれた言説空間の様相を呈していたことがわかってくる。プランゲ文庫の多数の資料からは、検閲に対する対応は一律ではなく、執筆者の考え、出版社・編集者の方針や対応、検閲官の判断など、複数の要素が複雑に絡み合いながら、占領期の言説が構成されていたことを具体的に明らかとなる。

研究成果の概要（英文）：

With the start of the American occupation of Japan, control of the censorship apparatus shifted to GHQ/SCAP (General Headquarters/Supreme Commander for the Allied Powers), which regulated public expressions in Japan from 1945 through 1949. A Closer examination of the Prange Collection and others reveals another dimension to the Occupation period. They show that responses to censorship were not at all uniform, and that multiple intertwining factors underlined the discourse of the Occupation period: the thoughts of writers, the policies and actions of the publishers and editors, and the decisions of the censors.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：(1) 日本近代文学(2)検閲 (3)メディア (4)占領期 (5)本文

1. 研究開始当初の背景

日本近代文学の研究においても、近年、占領期の文学研究への関心は少しずつ高まってはいるが、本研究を開始した当初は緒に付いたばかりであった。さらに、占領期における文学とメディアとの相関性にみる本文と検閲について、歴史的・社会的視点から総合的に考察する研究は、資料面の制約もあって、未開拓な部分が少なからずあった。

申請者が本研究で目指したのは、文学とメディアとの相関性に焦点をあて、本文研究の成果のスキルを生かしながら、占領期の検閲を検討することで、作家・作品に限定することなく、雑誌というメディア・編集者・出版社と文学との相互関連性という視点から、占領期の文学にあらわれた問題を具体的な資料に基づいて総合的に解明できる点にあった。そして同時に、占領期の文学研究における新たなアプローチの方法を示したいと考えた。

これによって実現を期したのは、第一に、事実として占領期検閲本文の詳細なデータを提示することであり、従来は漠然としたかたちで言及されることが多かった「事前検閲」「事後検閲」などの実態を、個々の本文やメディアに即してより正確に理解するための道を拓くことであった。そして第二に、個々の本文やメディアと検閲との具体的検討を通して、占領期の言説空間の特色と独自性を明らかにし、いわゆる戦後文学の展開を、作家の創作的営為としてのみならず、編集・出版・検閲などを含んだ総合的な視点で研究する可能性を拓くことであった。

2. 研究の目的

本研究は、第二次世界大戦後日本の占領期における文学とメディアにみる本文と検閲の相互関連性について、歴史的・社会的視点

から総合的に研究することを目的としていた。

占領期における文学研究はこれまで、個々の作家・作品の考察に中心が置かれて研究が進められてきたため、雑誌・新聞・単行本などのメディア、あるいはそれを編集・発行する編集者・出版社との相互関連性という視点を重視した、近代日本文学の本文と検閲について検証を加えた本格的な研究は重要な課題であった。したがって、本研究においては、「占領期メディアと文学の相関性」に注目し、そこにかがえる GHQ/SCAP の検閲のありようを、本文の検証を通じて明らかにし、新たな研究の領域を開拓しようと試みた。

以上のように、文学とメディアを関連づけながら、検閲を受けた本文を検討するアプローチの方法を選んだのは、各メディアにおける検閲の違いを対照し、占領期の検閲の個別的で恣意的な側面を照射できるからである。また、それとともに、各メディア間に見られる検閲の差異や齟齬を総合的に検証することが可能となると考えた。

3. 研究の方法

本研究では、三年間の研究を通じて、第一に占領期文学の本文における検閲の実態を調査し、それをメディア・作家・作品・編集者・出版社の視点から整理し、そして第二に、そこで得られたデータをもとに、検閲と本文を詳細に検討し、占領期文学とメディアの相関関係を解明することを目的としていた。

研究の進め方は、以下の通りであった。第一に、占領期に検閲を受けた文学作品を収集し、時系列に整理した資料を作成する。第二に、この資料をもとに、検閲を受けた本文の具体的事例を収集しまとめる。第三に、検閲を受けた本文の具体的事例を考察し、メディアのジャンル、検閲時期・地域などに留意し

ながら検討し、その特色を総合的に考察する。

本研究の性質上、アメリカ合衆国メリーランド大学図書館プランゲ文庫に所蔵されている占領期検閲資料が最重要資料の一つになるが、このことは日本の近代文学研究における国際的アプローチの可能性と意義、および資料の保存を旨とする図書館・資料館とその活用・研究をめざす研究者の相互理解と共同研究への模索という点でも、新しいモデルになり得ると考えた。

4. 研究成果

本研究における研究成果は、大きくわけて以下の三点に整理することができる。

第一点目は、基礎資料の収集と整理の成果が、山本武利・川崎賢子・十重田裕一・宗像和重編『占領期雑誌資料大系 文学編』全5巻（岩波書店、2009-10年）として刊行されたことがあげられる。研究代表者と研究分担者が編者としてかかわったこのプロジェクトは、本研究の重要な研究成果のひとつである。

第二点目は、2009年3月に米国コロンビア大学で開催された国際シンポジウム「*Censorship, Media, and Literary Culture in Japan: From Edo to Postwar*」をもとにまとめた、鈴木登美・十重田裕一・堀ひかり・宗像和重編『検閲・メディア・文学——江戸から戦後まで』（新曜社、2012年）の刊行である。この書物は、日本語と英語によるバイリンガル出版となっており、国内はもとより、海外で広く参照されるように編集されている。

第三点目は、後掲の研究論文および学会発表である。本研究の進行と呼応して公表した研究成果の内容は、占領期文学の検閲の研究ばかりではない。対象とする領域に狭く限定することなく、深く関連する時代、あるいは隣接するテーマにかかわる研究成果も選定

し掲げた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

①十重田裕一,「黒地の絵」にみるメディアと占領—小説から撮影台本へ」,「松本清張研究」,査読無,第13集,2012年,pp70-81

②十重田裕一,横光利一の著作に見るGHQ/SCAPの検閲—『旅愁』『夜の靴』『微笑』をめぐって」,「早稲田大学大学院文学研究科紀要」,査読無,第57輯,2012年,pp21-31

③宗像和重,「忠死」と「漫道」—明六社の一側面—,「繡」,査読無,第24号,2012年,pp.132-140

④宗像和重,「日本語学者」山田美妙—宿痾としての辞書編纂—,「文学」,査読無,第12巻第6号,2011年,pp.223-229

⑤宗像和重,「デジタルから紙へ」—図書館と文学研究—,「日本近代文学」,査読無,第84号,2011年,pp.108-115

⑥宗像和重,丹羽文雄「対人間」解題補遺—『占領期雑誌資料大系』文学編の完結にあたって—,「Intelligence」,査読無,第11号,2011年,pp.91-98

⑦十重田裕一,被災した作家の表現とメディア—新感覚派の関東大震災,「早稲田文学④」,査読無,2011年,pp138-143

⑧宗像和重,森鷗外、投書からの出発,「望星」,査読無,第42巻第1号,2011年,pp.31-37

⑨十重田裕一, 分裂した本文の軌跡, 「文学」, 査読無, 第 11 卷 5 号, 2010, 岩波書店, pp.159-172

⑩宗像和重, 筆記用具の近代文学, 「文学」, 査読無, 第 11 卷第 5 号, 2010 年, pp.254-255

⑪十重田裕一, 典拠の志向性——一九二三年、横光利一の文壇登場期を中心に, 「国語と国文学」, 査読有, 第 87 卷第 5 号, 2010 年, pp.93-105

⑫宗像和重, 漱石と金沢求也—立花君が発見したこと—, 「図書」, 査読無, 第 738 号, 2009 年, pp.24-27

⑬十重田裕一, 伏字のゆくえ—横光利一『上海』草稿への視角, 「国文学 解釈と鑑賞」, 査読無, 第 949 号, 2010 年, pp.77-84

⑭十重田裕一, 一九三五年の川端康成と太宰治—第一回芥川賞をめぐる応酬に潜むもの, 「太宰治研究」, 査読無, 17 号, 2009 年, pp.190-197

⑮宗像和重, 「若き久米正雄・久米正雄・芥川龍之介・菊池寛」展から—第四次『新思潮』の草稿・原稿・校正刷をめぐって—, 「日本近代文学」, 査読無, 第 80 集, 2009 年, pp.90-100

[学会発表] (計 1 件)

①宗像和重, 一葉の原稿用紙, 樋口一葉研究会, 2011 年 6 月 18 日, 駒澤大学

[図書] (計 8 件)

①鈴木登美・十重田裕一・堀ひかり・宗像和重編, 新曜社, 『検閲・メディア・文学 江戸から戦後まで』, 2012 年, pp.1 - 382

②中村明・佐久間まゆみ・高崎みどり・十重田裕一・半沢幹一・宗像和重編, 朝倉書店, 『日本語文章・文体・表現事典』, 2011 年, pp.1 - 829

③山本武利・川崎賢子・十重田裕一・宗像和重編, 岩波書店, 『占領期雑誌資料大系 文学編 第 1~5 巻』, 2009~2010 年, pp.1-307, pp.1-316, pp.1-349, pp.1-310, pp.1-379

④十重田裕一, NHK 出版, 『「名作」はつくられる—川端康成とその作品』, 2009 年 pp.1-174

6. 研究組織

(1) 研究代表者

十重田 裕一 (TOEDA, Hirokazu)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号 : 40237053

(2) 研究分担者

宗像 和重 (MUNAKATA, Kazushige)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号 : 90157727